

## 7 チツソについて

チツソは原因がわかっていたのに、なぜ工場廃水を流し続けたのですか？



会社がもうかることだけを考えて、人々の健康や環境のことを考えようとしなかったため、被害がこんなに広がってしまいました。

← 昔のチツソ工場(左)と  
廃水口の様子(右)

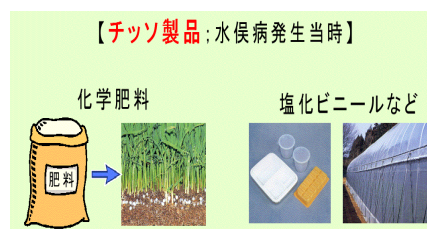


水俣病が発生してからチツソが原因だと公式に認められるまで何年かかったのですか？

1956年(昭和31)の水俣病発生<sup>かくにん</sup>の公式確認から「水俣病はチツソの工場廃水が原因で起きた公害病」と国が認めた1968年(昭和43)まで、およそ12年かかりました。

チツソは水俣病が発生した当時、どんなものを作っていたのですか？

ポリ袋、ビニール、衣服、その他プラスチックなどの素材となる塩化ビニールや、畑で作物を作るときに使う化学肥料などを作っていました。



チツソは今どうなっているのですか？

チツソは本社を東京におき、水俣工場のほか、千葉県<sup>ごい</sup>の五井工場や滋賀県<sup>もりやま</sup>の守山工場などがあります。今は家電製品などに使われる液晶や食品の保存料、化学肥料などのいろいろな製品を作っています。

チツソは水俣病を起こした原因企業として責任をはたさないとはいけません。患者さんへのつぐないの支払いを続けるためにも、環境にやさしい企業としてこれからもがんばっていくことが望まれています。

チツソの廃水は今どうなっていますか？



1968年(昭和43)5月18日、チツソはメチル水銀を流す原因となったアセトアルデヒドの製造を中止しました。それからは水銀を含んだ廃水は流されていません。